

福岡教区今年度の目標…「信仰の伝達」

小教区今年度のテーマ…「学び、伝えよう、家庭から私たちの信仰を」

与えられたタレントを活かす為に



主任司祭 遠山満

ある司教様が、叙階されたばかりの新司祭だった頃、お父様が毎朝、新司祭様の赴任地の教会に、駆けつけておられたそうです。それは、叙階された我が息子は、小教区の信者さん達に迷惑をかけないで司牧をしているだろうか、今朝はちゃんと起きてミサを捧げているだろうか、という親心からなされたことであつたと思います。

パウロは、エフェソの信徒への手紙の中で次のように言っています。「主に結ばれて囚人となっている私はあなた方に勧めます。神から招かれたのですから、その招きに相応しく歩みなさい」（4章1節）。私たちは、神から招かれて、洗礼を受け、様々な道へと招かれました。それ故、パウロは、司祭は司祭として、修道者は修道者として、また家庭の父親は父親として相応しく歩むようにと言います。それぞれの立場で、どのように歩むべきかは異なります。ただ一つ言えることは、一つの道を歩み始めたならば、自由はなくなります。例えば、司祭として歩み始めたならば、独身者としての孤独を耐えたり、この世の楽しみをある程度放棄したりしなければなりません。逆に、家庭の父親として歩み始めたならば、子育ての苦勞などを覚悟せねばなりません。それゆえパウロは、自分自身のことを「主に結ばれて囚人となっている」と表現しています。

神学生の時、「叙階すれば、秘跡の恵みが働きますから、人は変わりますよ」と言う人もいます。しかし、叙階しても全く変わらない人もいます。神学生の時の問題を、そのまま叙階しても持ち越してしまいます。これは、叙階の秘跡に限った事ではありません。私たち、皆が頂いている洗礼の秘跡においても然りです。私たちは、洗礼の秘跡を通して、大きな恵みを頂きました。それは、大きな資産を委ねられたのと同じです。

マタイ福音書の中にタラントンの譬え話があります。1タラントンは、現在のお金に換算すれば、6千万円位です。そのような多額の財を、神様は私たちに任せて下さっています。私たちは、洗礼を通して、このような大きな財を任せられたのですから、これを用いて活かして生きるように致しましょう。これを穴にしまっておくのではなく、他の人々の為にも用いながら生きることが出来ますように、必要な恵みを願いましょう。



アウグスチノ祭 8月24日(日) 10時にミサ



予想をはるかに超えた100名ほどの参加!! 大盛況!!

今年は趣向をこらして、そうめん流しに挑戦。子どもは大喜び!!

アウグスチノについてのクイズ大会がありました。問題用紙と鉛筆が配られ、参加者は全員、真剣に? O×式で解答しました。

答え合わせ
全員真剣です



アウグスチノ
クイズ王の
決定戦



うまくつげるかな?



大人も
楽しみました

そうめん流し

神父様より 個人情報をごどこまで開示するか悩んでらっしゃると思うが、教会は、家族であることを忘れないで頂きたい。

連絡網のアンケートを近日中に配布

1.) アウグスチノ祭の振り返り

8月24日(日) 10時のミサ後に行われた。100名程の参加あり。

- ・会場はホールだったが、手狭になってきているので、来年は屋外テントを張ることを検討する。
- ・予算内で済んだ。かき氷お寄付あり。
- ・自由献金だったが、5万円ほどあり、全てを広島の被災地に送った。
- ・そうめん流しの竹はカビがくるので、来年は直前に準備する。

2.) 敬老会について(9月21日10時のミサ後)

・75歳以上 64名

教会学校でメッセージを用意

- ・これを機に、アンナ会を発展させる(男性の参加を呼びかける)。
アンナ会は10月から月1回 初金曜日。お世話ができるスタッフ募集。

- ・敬老会当日、ミサ後のお祝い準備を手伝って頂きたい。

当日8時(前日からの準備は役員会です)から

- ・ミサ中に病者の塗油を行う(ミサ後、近藤みどりさんの納骨)

3.) 巡礼について(10月18日(土))

・長崎外海地区(9月9日下見)

・大型バス(50名)1台 予約済み(信徒会負担 10万円予算)

・8時から~18時の予定

・会費 1000円 ・昼食をどうするか検討

・ボランティアガイド(黒崎)を依頼

編集後記



最近、共同体とは何か。教会における家族とは何かということを考えさせられることがある。それは、我が教会での通夜、葬儀への参列者の少ないことは、なんとも寂しく、悲しいと思われるのは私だけだろうか。ごく限られた身内、家族で送ってやればといいと言う考えもあろう。しかし、もし、自分の葬儀に教会の信徒のみなさんが少ないとは考えたくはない。たくさんの教会家族に見守られ、天国へ送ってほしいと私は思う。先日 義父が突然亡くなり、通夜、葬儀に参列した。奄美大島で迫害にもあった熱心な信者であった義父のために、多くの教会関係者が弔問に訪れてくれた。たくさんの方々が家族を失った遺族の悲しみに共感し、共に祈り、一緒に涙してくれた。神父様も葬儀ミサで、たくさんの子供や孫に囲まれて亡くなった義父を旧約の「アブラハム」に例えて説教をしてくださった。悲しい出来ごとであったが、教会家族に支えられたことは救いであった。苦楽も悲哀も分かち合える家族（共同体）になりたいと思う。（Y・K）